



## あらためて地域公共交通を考える

# 国労シンポジウムを開催

10月14日に東京都港区・交通ビルにおいて「JR発足37年あらためて地域公共交通を考える10・14シンポジウム」が国鉄労働組合主催で開催された。

基調報告として日本大学の桜井徹名誉教授は、37年前に国鉄が分割・民営化された時の自民党は国鉄改革を進める上で「ローカル線はなくなりません」と宣伝したとその約束は果たされたのか、と問題提起をした。

### パネルディスカッションで報告

続いて、埼玉大学の安藤陽名誉教授をコーディネーターとし、6人（私鉄総連・志摩卓哉交通政策局長、島根県江津市・上田好雄市議、北海道本部・菊池宏之書記長、東日本本部・渡辺信之副委員長、岡山地方本部・小林靖浩委員長、広島地方本部・佐々木隆一委員長）によるパネルディスカッションが行われ、第2ターン（公共交通を取り巻く現在の状況と課題）と第2ターン（公共交通維持の重要性と利用推進の取組等について）に分け、パネラー6人から報告された。



国労岡山地方本部と広島

地方本部からは、芸備線の「再構築協議会」触れながら国労の運動を報告し、JRには公共交通を守る社会的責務があり、国は再構築協議会の行司調整役などという傍観的な姿勢でなく、主体的に鉄道ネットワークの持つ社会的価値を認識し、ローカル線の維持と利便性を図るために積極的役割を果たすべきと指摘した。



今回のシンポジウムは、会場が満員になるほどの参加者で開催された。この盛りあがり在今后も継続していかなくてはならない。第2回目となる芸備線の「再構築協議会」が10月16日に岡山市で開催された。バス転換や上下分離方式などが議論されたとの報道であるが重要なことは、公共交通としての鉄道のネットワークの必要性である。そのために、国が財政的な関与をすべきである。いま国労として12月までに「地域公共交通を守る全国統一行動」を全国各地で取り組むことになっている。その視点に立ちながら岡山地方本部としても街宣行動や沿線自治体との意見交換、共闘組織との集会などを取り組んで行く。



### 2024年度 新役員紹介

執行委員長	小林靖浩	岡山保線区和気管理室
副執行委員長	勝田哲也	岡山運転区
書記長	青山准三	岡山保線区茶屋町管理室
執行委員	藤江一成	倉敷保線区福山管理室
執行委員	小林裕二郎	JR中国メンテック
会計監査委員	西原 浩	倉敷保線区倉敷管理室
会計監査委員	岡本岩夫	西日本電気テック

### 駅無人化反対！ローカル線廃止反対街宣行動！

日時 2024年11月30日（土）  
10時 地本集合

行動場所  
岡山駅サンステ通路  
大元駅周辺、北長瀬駅周辺

